

診療科			
内科 徳島大学内科には呼吸器・膠原病内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、消化器内科、内分泌・代謝内科、神経内科の7つの小診療科があります。 内科の後期臨床研修プログラムは初期研修2年間で体得した知識・診療技能を更に深く専門内科医へとステップアップし、それぞれが労働市場での価値を高めるように企画されています。専門医研修システムとしては、7つの内科各診療科より選択した特定の専門領域を研修するコースと、プライマリケア志向の総合内科診療研修コース(3ヶ月単位で複数の内科小診療科のローテーション)を用意しています。臨床研究に興味ある方は大学院に進学し同時に専門医資格取得も可能です。つまり専門医志望者にも総合内科医志望者にも、また研究志向者にも無駄なく対応できる柔軟な研修システムとなっております。指導医側も臨床研修指導医養成講習会に積極的に参加するなどレベルアップ・アップデートに努めています。	内分泌・代謝内科 (科長 松本俊夫) ホルモンは全身臓器の機能調節に関わり、生体のホメオスタシスの維持に必須です。このため内分泌異常症は多彩な全身状態を呈します。代謝異常症には糖尿病や脂質異常症、痛風、骨粗鬆症などの生活習慣病が多く、全身を診る臨床床としてその理解は不可欠です。また近年のメタボリックシンドロームへの注目の高まりに対応すべく、当科が中心となって全国に先駆けて検診システムを病院内に構築し、稼働中です。日常診療やメタボリックシンドローム検診を通して、最終的には動脈硬化を含む心血管病の予防を、循環器内科とも連携して進めています。 連絡先 松本俊夫 toshimat@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121	血液内科 (科長 安倍正博) 血液内科では、造血障害、造血器腫瘍や免疫不全を中心とした血液・免疫疾患に対し、化学療法、輸血療法、感染症治療、同種造血幹細胞移植術など幅広く診療を展開しております。このような治療の遂行においては、全身の管理が最も重要です。このため当科では全人的、総合的、かつ専門的診療のできるバランスのとれた医師の育成を目指しています。 連絡先 安倍正博 masabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7120 fax.088-633-7121	外科 外科は消化器・移植外科、呼吸器外科、食道・乳腺甲状腺外科、心臓血管外科、小児外科・小児内視鏡外科から構成され、各科の専門医が協力し、臨床研修制度や専門医制度に対応した指導体制が整っています。 卒後2年間の臨床研修の後、徳島大学外科に所属し、まず外科専門医の取得を最優先しますが、この研修は徳島大学病院から始めることも関連施設から始めることも可能です。四国内の約40の地域基幹病院のほか九州や沖縄にも関連施設があり、十分な外科修練を受けることが可能です。サブスペシャリティーの選択は、外科所属時、外科専門医取得いずれの時期でも結構です。その後は、最新の基礎研究を行い、医学博士号の取得、海外留学を目指したコース、臨床に重点を置き、サブスペシャリティー専門医の資格を先に目指すコース、これらをバランス良く平行して修練するコースなどを設定し、いずれにしても入局後約10年以内の医学博士号とサブスペシャリティー専門医取得を目指します。外科を重点的に研修したい人のための初期臨床研修プログラムも準備しています。
消化器内科 (科長 高山哲治) 消化器内科では2007年12月より高山哲治教授が擔任され、若い医師を中心とした新体制で消化器疾患の診断と治療を積極的に行っています。内視鏡治療では、早期胃癌、食道癌、大腸癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に行うとともに、消化器癌に対する薬物療法では、新しい抗癌薬や分子標的治療薬を組み合わせた最新の治療を行っています。また、肝炎、肝硬変、肝癌などの肝疾患に対する治療も積極的に行い、肝癌に対するラジオ波焼灼術や高度なインターベンション治療を多数行っています。当科では、優れた研修システムを採用し、専門医や指導医と研修医が一体となって、最善の医療を提供しております。 連絡先 阿久稔也 okahisa@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7124 fax.088-633-9235	循環器内科 (科長 佐田政隆) 循環器内科はプライマリケアから非侵襲的画像検査、カテーテル治療などの専門・高度医療にわたる幅広い領域をカバーしています。当科では救急集中治療部と合同で循環器救急24時間体制を構築しており、徳島県内の各種医療機関との病診連携も積極的に行っています。臨床研修については、四国はもとより東京、大阪、神戸などの県外医療機関と積極的に連携して、各自の将来設計に柔軟に対応できるプログラムを提供しています。 連絡先 佐田政隆 sata@clin.med.tokushima-u.ac.jp 岩瀬俊(卒後研修主任) tiwase@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7851 fax.088-633-7894	呼吸器・膠原病内科 (科長 曾根三郎) 肺炎、肺がんに代表される呼吸器疾患、気管支喘息、リウマチ・膠原病疾患を中心に専門医・指導医のもとにチームワーク医療を推進しています。呼吸器疾患だけでなく、全身性の自己免疫疾患を担当し適切な治療と全身管理ができる専門医の育成を目指しています。特に診断法として、胸部画像撮影、気管支鏡診断技術の向上に力を注いでおり、肺がん、びまん性肺疾患などの診断法が自然に身に付きます。抗がん剤、分子標的薬を用いた肺がん治療、緩和療法が学べ、膠原病・リウマチ疾患のステロイド剤、免疫抑制剤、生物学的製剤の適正使用も数多く経験できます。常時、外国人医師を受け入れ、誰かが海外留学中と国際感覚を養っており、初期研修終了後を視野に入れた研修が可能です。 連絡先 吾妻雅彦 mazuma@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7127 fax.088-633-2134	食道・乳腺甲状腺外科 (科長 丹黒 章) 安心できる最先端医療を提供することがわれわれの使命と考えています。新しい診断・治療技術の開発と癌に対する低侵襲治療の研究に日夜研鑽を重ね、全身の診れる外科医、癌治療医を目指す情熱と希望にあふれる皆さんに充実した研修と研究の場を提供します。詳しくはホームページ(http://www.tksbizan.com/)をご覧ください。 連絡先 先山正二 sakiyama@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
神経内科 (科長 梶 龍児) かつては「わからない・おならない」と抑圧された時代もあったらしいですが、時代はダイナミックに変わっております。頭の先から指の先までの神経の症状、神経難病、脳卒中(SCU)から日常遭遇する一般的な症状(頭痛・物忘れ・手足のしびれ感)に至るまでを「治る神経内科」を実践しております。ストレートな専門医試験合格にも定評があります。国内・海外への留学実績も豊富です。 連絡先 和泉唯信 yizumi@clin.med.tokushima-u.ac.jp 浅沼光太郎 dolcevit@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7207 fax.088-633-7208	腎臓内科 (科長 土井俊夫) 腎臓内科では、県下一円から難治性の腎疾患患者を受け入れています。腎臓内科の診療活動は、ネフローゼ症候群・腎炎などの腎疾患の診断治療と慢性腎不全期の透析導入の2つの柱からなっています。糖尿病など全身性疾患からの腎障害も多く、広く内科全般に渡る研修をさせていただきます。 当科での取得可能専門医：内科専門医・腎臓専門医・透析専門医 連絡先 土井俊夫 doi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7184 fax.088-633-9245	皮膚科 (科長 荒瀬誠治) 皮膚科では現在、後期研修医を含む16人で毎日平均70人の外来患者、16人の入院患者を診ながら、教育・研究も行っています。過去10年間の新入医員は年平均2人です。後期研修の目標は、1).実学としての皮膚科医の習熟、2).皮膚科専門医取得 3).できれば研究です。全て卒業後が勝負で、体力、気力をもち、他人と話ができさえすれば男・女性に向いています。また研究にも興味を示して欲しいですね。いずれにせよ、皮膚科を選んだことを後悔する事はないですよ。 -我敢道若者入局- 連絡先 荒瀬誠治 sarase@clin.med.tokushima-u.ac.jp 飛田泰斗史(総務医長) hida@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7154 fax.088-632-0434	泌尿器科 (科長 金山博臣) 泌尿器科では、泌尿器科専門医の習得をめざした教育研修体制をとっています。関連病院のほとんどが泌尿器科研修制度の基幹病院かつ透析認定施設であり、症例も多く充実した研修が受けられ、泌尿器科専門医の習得とともに透析専門医の習得も可能です。専門医習得までは大学および手術件数の多い基幹教育施設での研修を原則としています。その他、腹腔鏡技術認定医、生機能認定医、腎移植認定医等の研修・習得も可能です。また、希望に応じて大学院進学、国内および海外留学もできます。超高齢化社会を迎えて泌尿器科医の需要は益々高まっています。泌尿器科に興味のある先生の入局を大歓迎します。 連絡先 金山博臣 kanashiro@clin.med.tokushima-u.ac.jp 福森知治 fukumori@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7159 fax.088-633-7160
放射線診断科 (科長 西谷 弘) 放射線診断科では画像診断(CT、MRI、核医学、超音波、消化管透視)、IVR(血管内治療、CTガイド下生検など)に従事しています。現代の医療において画像診断は必要不可欠な存在であり、IVRやヨードを用いた甲状腺治療およびツイトリウムを用いた悪性リンパ腫治療は低侵襲治療の代表としても重要な役割を果たしています。全国トップクラスの検査装置、画像診断システムに恵まれた環境のもと、最先端の医療に携わってみませんか。研究においても各々の分野で多くの臨床研究を行っています。また、家庭を持った女性医師でも働きやすい環境作りに努めており、そのような女性医師の入局も歓迎です。 連絡先 高尾正一郎 stakao@mail.medsci.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7173 fax.088-633-7174	放射線治療科 (科長 生島仁史) 高精度外部放射線治療に対応する3台のリニアック、3次元治療計画装置と密閉小線源治療システムを有し、年間800人を超える新規患者に対して放射線治療を提供しています。特に中枢神経系腫瘍や肺がんの定位放射線治療、頭頸部腫瘍や前立腺がんの強度変調放射線治療、局所進行がんの化学放射線治療に積極的に取り組んでいます。本年度中の最新鋭治療装置導入も決定しており、更に精度を向上させた画像誘導放射線治療を開始します。当科では粒子線治療を除くすべての放射線治療技術の研修が可能です。また、緩和的治療を含めた広範な悪診療に携わっておりますので、多くの診療科との連携の中で癌チーム医療を学んでもらい、ハイテク装置による低侵襲がん診療技術を習得したがんプロフェッショナルに育成します。 連絡先 吉原 稔 irahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp 前田和寿 maeda@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7177 fax.088-631-2630	産科婦人科 (科長 吉原 稔) 現在医局員は、吉原 稔教授をはじめとして、23名。診療面では不妊診療、産婦科診療、周産期診療、女性医学診療(更年期障害、高脂血症、乳癌検診)の4診療部門があり、どの部門も全国でトップレベルの成績です。また、分娩数は年間577件、手術件数は500件。研究面では6つの研究班に分かれて、基礎的及び臨床的研究を行っています。教育面ではカリキュラムを組み、学生、初期研修医の指導も行っています。女性医学に興味のある人は是非連絡下さい。 連絡先 吉原 稔 irahara@clin.med.tokushima-u.ac.jp 前田和寿 maeda@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7177 fax.088-631-2630	整形外科 (科長 安井夏生) 整形外科は骨や筋肉・関節・神経など運動器を幅広く扱う診療科です。骨大工的な要素は多分にありますが、骨は生き物であるところが、大工さんとは異なります。整形外科は守備範囲が広く、なかなか一人前にならない一方で、誰でも努力すれば一流になれるところが魅力です。徳島から世界にははたか骨大工になりませんか。 連絡先 安井夏生 nyasui@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7240 fax.088-632-0178
小児科 (科長 香美祥二) 「私達自身の未来である子ども達の健康を守ること、一般小児科臨床の基本を習得した上で更に小児科サブスペシャリティー(専門分野)での診療能力を養うこと」を目標に、小児科は医局員一同、切磋琢磨しています。香美祥二教授のもと、伝統を守りつつも新しいことに挑戦する姿勢で、日々診療に研究に努力しています。子ども達のために21世紀の小児医療を背負う若手医師の入局を、心からお待ちしております!! 連絡先 森 健治 moriken@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7135 fax.088-631-8697	精神科神経科／心身症科 (科長 大森哲郎) 今、精神科医が求められています。精神科の敷居が低くなり受診が増え続ける現状に加え、教育や行政からのニーズも激増しております。精神科は非常に守備範囲の広い診療科です。自分のライフスタイルや興味に合わせて方向性を選択することができます。指導体制の充実には自信があります。精神科医になるなら徳大精神科での研修を！ 連絡先 大森哲郎、住谷さつき satsuki@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7130 fax.088-633-7131	病理部 (部長 坂東良美) 病理部は、病理・細胞診断を行うことにより、院内で実施される医療行為にEvidenceを与える仕事を担っています。全国的に病理専門医数は絶対的に不足しており、専門医取得後の勤務先探しに苦労はしません。また、病理診断科が標榜科として認められ「開業病理医」という事業形態をとることも可能になりました。医療界全体が病理医の育成、獲得に必死になる時代が目の前に到来しつつあります。研修にあたっては、各人の事情(婚姻、子供の有無、勤務時間等)を考慮し、弾力的に対応します。若き人材の参入を心からお待ちしております。 連絡先 坂東良美 yoshimi@basic.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7454 fax.088-633-9565	麻酔科 (科長 大下修造) 初期研修プログラムではどの科に進んでも必要な呼吸循環管理ができることを目標としています。特に、気管挿管が自信を持ってできることを最低目標としています。後期研修プログラムでは大学と関連病院をローテーションすることであらゆる症例や状態に対応できる麻酔科医を育成し、また麻酔科関連の研究で世界に貢献できる教養を目標としています。 連絡先 堤 保夫 anesth@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7181 fax.088-633-7182
消化器・移植外科 (科長 島田光生) 「拡大切除・機能喪失から低侵襲・再生外科へ」をスローガンに、肝胆膵領域では癌に対する高難度手術、化学・放射線療法を併用した集学的治療の他、非代償性肝硬変や劇症肝炎、肝細胞癌に対する肝移植を行っており、肝臓外科高度技能修練施設Aに徳島で唯一認定されています。また消化管悪性腫瘍に対しては、PET-CTや拡散強調MRIなど新しい画像診断や化学療法を導入し、胃癌の約4割、大腸癌では約9割の鏡視下手術を積極的に行っています。さらに鏡視下アニマルラボを含む後期研修プログラムも希望に合わせ用意しています。詳しくはHP (http://www.tokugeka.com/)をご覧ください。 連絡先 森根裕二 ymorine@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7139 fax.088-631-9698	心臓血管外科 (科長 北川哲也) 心臓血管外科医は、“自分の知と腕”でもって、患者さんの生きようとする力を支えてあげることのできる、やりがいのある仕事です。暖かい心と勇気を持ち、夢と情熱のある方は、当科で専門医研修をしませんか。君たちの想いに応えます。現代の社会環境こそチャンスです。“Chance favors only the prepared mind !!”次代を担うのはあなたです。 連絡先 北市隆 kitaichi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7581 fax.088-633-7408	眼科 (科長 内藤 毅) 眼は小さな臓器ですが、その障害によりQOLは大きく左右されます。そのため多くの専門分野があり、当科では網膜硝子体、緑内障、角膜、斜視弱視、ぶどう膜炎、眼瞼眼窩といった広範囲の疾患を研修することができます。内藤准教授は、独自の25G小切開硝子体手術器具を考案しレベルの高い手術を行っています。江口調師はAlphaCor(人口角膜)のライセンスを所得し、日本で唯一この手術をしています。レベルの高い医師になりたい方、留学や国際医療協力に加わりたい方、私たちの眼科へ来て下さい。 連絡先 江川麻理子 emari@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7163 fax.088-631-4848	呼吸器外科 (科長 先山正二) 当科は、肺癌、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍などの腫瘍性疾患を中心として、ロート胸、臍胸、気胸など呼吸器外科疾患全般に関して診療を行っています。肺癌に対する胸腔鏡下手術、早期肺門部肺癌に対する光線力方法や気道狭窄に対するステント、レーザー治療なども積極的に行っています。外科におけるサブスペシャリティーとしての呼吸器外科専門医取得のための充実した修練プログラムを用意しています。外科・呼吸器外科に興味ある若人よ、来たれ！ 連絡先 先山正二 sakiyama@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7143 fax.088-633-7144
小児外科・小児内視鏡外科 (科長 高原裕夫) 1)小児外科の広範な疾患に対する治療：四国の小児外科の中心的施設として、胸部、腹部をはじめ小児悪性腫瘍および、泌尿器科領域まで広範な疾患をカバーしています。 2)小児外科領域での鏡視下手術：独自に開発した小児鼠径ヘルニアに対するLPEC法を780例(1250件)施行した他、ヒルシュスプルング病、鎖肛、先天性腸閉塞などを含む新生児外科疾患に対し、鏡視下手術を積極的に行っています。 連絡先 高原裕夫 takehara@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7137 fax.088-631-9698	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (科長 武田恵昭) 現代の耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、頭頸部の感覚運動医学、機能再建外科、頭頸部腫瘍外科を担当する科です。徳島大学耳鼻咽喉科では、耳鼻咽喉科の全ての担当範囲において国際トップレベルの医療を導入し、明るく楽しく積極的で、個性を尊重して個性を伸ばし、世界一の耳鼻咽喉科をめざしています。徳大耳鼻喉科で頭頸部のスペシャリストをめざしませんか？ 連絡先 阿部晃治 kabe@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7169 fax.088-633-7170	脳神経外科 (科長 永廣信治) 脳神経外科疾患には、救急医療から慢性期疾患まで幅広く対応します。脳血管障害、神経外傷は救急医療の多くの部分を占めており、救急医療の習得が可能です。徳島大学脳神経外科の後期研修プログラムでは脳神経外科疾患を全般的に経験することが可能であり、到達目標を明確に定めており、有意義な研修ができます。後期研修修了後は、豊富な疾患力デゴリーの中から、自分の興味や特性に合った専門分野を選択することができます。 連絡先 里見淳一郎 jsatomi@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7149 fax.088-632-9464	形成外科・美容外科 (科長 中西秀樹) 当科での専門医研修には、形成外科専門医を習得するための専門医前研修(4～6年間)とその後の専門分野の強化研修があります。初めの1年間は大学病院で形成外科基礎研修を行い、関連病院での臨床研修に移ります。当科からは四国四県の公立病院(高知赤十字病院、松山赤十字病院、高知医療センター、徳島県立中央病院、香川小児病院など)で臨床研修を受けることが可能です。大学院博士課程への入学や専門医習得後の海外・国内留学のチャンスもあります。 連絡先 橋本一郎 ihplast@clin.med.tokushima-u.ac.jp tel.088-633-7296 fax.088-633-7297
研修するならぜひ徳島大学へ			